

# わがまちの取り組み

わたしたちがんばってます!  
市町社協ワーカーの声

## 甲良町

### 子どもの育ちを見守りながら みんながつながるまちづくり

甲良町社会福祉協議会 総務地域室  
主任主事 春近翔子さん



私たち甲良町社協は「甲良町がひとつの家族となるようなまちづくり」を目指して事業を展開しています。

甲良町は年々人口が減少していく一方で、世帯数は増えています。核家族世帯や高齢者世帯、単身世帯が増えるなか「家族のカタチ」がめまぐるしく変わってきています。当然、子どもが育つ環境も変わってきました。

平成22年1月から展開している「地域子ども支え合いプラン13事業」は、地域のなかで日常的に子ども達がのびのびと遊び、様々な経験と出会いができる場づくりを目的とし、町内の全地区(13地区)において、定期的な公民館等の開放をすすめています。

活動される地域住民さんの「うれしかった話」や「困った話」から見えてくる地域の実情や課題と丁寧に向き合い、家族のカタチが変わってきている時代だからこそ、町全体で子どもの育ちについて考えていけるように働きかけていきたいと思っています。

## 長浜市

### 地域福祉活動計画策定を進める中で

長浜市社会福祉協議会 地域福祉課分室 主査 山口毅さん

長浜市社会福祉協議会では、新長浜市になり初めての「地域福祉活動計画」策定を進めています。現在、暮らしの課題を明確にするため、地域福祉課職員が協力して、市内15地区で地区別委員会を進めています。

私は、合併後、北部地域における日常生活自立支援事業等の相談支援業務に関わるが多かったため、これまで地区との関わりが少なく、この委員会が初めて地域の方々からお話を聞く機会になります。できるだけ多くの地区へ出向き、実状をお聞きするようにしています。そこでは、北部だけの問題だと思っていた除雪や買い物、高齢化等の地域問題は、市内中心部でもあることがわかり、もっときめ細かく地域に入らなければわからないことがあると再認識しました。

今回の計画策定により、5年後の地域について、地域の方々と一緒に考え、社協がどのように支えていくかを考える機会であると思います。その中で、たくさんの地域と関わり、住民・地域・専門職の橋渡しができればと考えています。



## リレーメッセージ 「つながり」づくりの 「おせっかい」のすすめ

桃山学院大学社会学部 教授 松端克文さん



日本漢字能力検定協会が全国から公募して一番票が多かった漢字が「今年の漢字」となります。2011年は「絆」でした。2010年の流行語大賞には「無縁社会」がノミネートされていました。これはNHKで放送された番組のタイトルです。私たちの社会が「無縁」化しているだけに、震災という危機的な状況を契機として「無縁」の対極にある「絆」が重視されているのだといえます。

しかし、「絆」というのは個々人の意思で強めたり、弱めたりできるようなものではなくて、常に後から気づくものです。それに温かい絆もあれば、煩わしい絆もあり、「絆」があっても解決できないこともたくさんあります。「絆」や「縁」が人知を超えているとしても、「つながり」は地域における具体的な活動を通して、私たちの力でつくることが出来ます。ただし、善意が空回りすることもよくあります。でも、そもそも福祉は「なんとかしなければ!」という人が始めた活動です。本来的に「おせっかい」な行為なのです。だから、少々煩わしさも引き受けた上で、「おせっかい」をすればいいと思います。たとえひとりでも、そのことで救われる人がいるのなら……

2012年の漢字は「金」になりました。2013年は、みなさんでおせっかいの「金」メダルを目指しましょう。

プロフィール 松端克文 (まつかた かつふみ)  
桃山学院大学社会学部教授(社会学部)、専門は地域福祉論、大学での講義のほかには講演や研修会の講師の仕事年間約70回行っている。近著では「よくわかる地域福祉(第5版)」(編著、ミネルヴァ書房、2012)がある。

## NEWS 県社協ニュース

### ひとりも見逃さない ～災害時要援護者支援の取り組み～



▲日野町清田福祉会でのマップづくりの様子。  
みんなが地図を見ながら、地域の中で要援護者をどのように支援するか考えます。

災害時などのいざという時には、自助や公的機関による公助だけでなく、家族や近隣住民による「共助」がいかに力を発揮するかが問われます。阪神・淡路大震災においては、家屋等に閉じ込められた人で、公助により助けられた方はたったの2%というデータもあります(1996年日本火災学会)。特に、高齢者や障害者、特定の疾患を抱えた人などに対しては、その人の状態に応じた配慮や支援ができるよう、日頃から住民同士が顔の見える関係のなかで情報を共有しておくことが大切です。

地域では、住民が主体となって災害時

の個別避難支援プランを作るなど、災害時にひとりも見逃さないための取り組みがあちこちで広がっています。

「災害時要援護者支え合いマップ」は、区や自治会にある助け合いの仕組みを要援護者支援のために活かす方法で、作成にあたっては、民生委員児童委員や区役員などが要援護者を訪問したりしながら、誰が支援し、どこに避難するのかを考えます。その過程のなかで社協や行政もかわり、さらに住民同士が改めて意識することで、日頃から互いに気にかけて合う地域づくりにもつながります。

要援護者の避難支援は、まさに地域の力にかかっているといえます。



▲マップづくりに関する研修会も開催され、ますます住民の意識も高まっています。

# しがの地域福祉力 vol.2

## CONTENTS

### 地域ぐるみで支え合う

わたしたちのまち! <野洲市>

### わがまちの取り組み

甲良町社会福祉協議会  
総務地域室 主任主事 春近翔子さん  
長浜市社会福祉協議会  
地域福祉課分室 主査 山口毅さん

### リレーメッセージ

「つながり」づくりの  
「おせっかい」のすすめ  
桃山学院大学社会学部 教授 松端克文さん

### 県社協ニュース

ひとりも見逃さない  
～災害時要援護者支援の取り組み～



▲甲良町「子ども支え合いプラン13事業」の1つで、池寺地区「おもちゃ箱」のひとコマです。小さい子どもから大きな子どもまで一緒に遊び、後ろで地域の大人が見守っています。(わがまちの取り組み・甲良町参照)

滋賀県社会福祉協議会

2013年1月

# 地域ぐるみで支え合う わたしたちのまち! 野洲市

サロン活動や見守り活動など、住民同士の助け合いの活動、そして専門職が連携して支援にとりくむネットワーク、それぞれが運動する重層的な地域ぐるみの支え合い活動を紹介しています。

第2回目となる今回は、野洲市の近江富士第5区の小地域福祉活動の取り組み、専門職との連携から、野洲市全体での地域ぐるみの福祉活動についてご紹介します。

※サロン活動とは…  
地域で高齢者や障がい児・者、子育て中の方が、生きがいや元気に暮らすきっかけを見つけ、地域の人間同士のつながりを深める自主活動の場です。  
また、地域で交流の場をもうけることで住民の地域への関心を深め、近隣での助け合いを育む地域づくりをめざしています。

## 小地域福祉活動

### 住民が主役!

小地域福祉活動とは、自治会や小学校区エリアなど、生活に身近な地域を単位として、誰もが安心して、生きがいをもって生活できる地域づくりのために、地域の福祉課題の解決をめざして進める、住民が主体となっておこなう福祉活動です。



▲高齢者のサロン  
「五区のひろば『なごむ』」

## 住みよい地域づくりのために

今回ご紹介する近江富士第5区は、人口451人、世帯数160世帯(2012年4月現在)の地区です。

これまでに、救助応援を必要とする方のお宅を地図上に示した「気配りマップ」を作成し、見守り活動をすすめてきています。この「気配りマップ」は、高齢者など援助の必要と思われる方を対象に、本人の同意のもと、身体の状況や介護の程度などの情報を記入した「救助・応援カード」を元に作成しました。「救助・応援カード」は民生委員、自治会長と本人のみが保管しており、マップは福祉健康委員が責任を持って管理し、委員を交代するときは返還する仕組みになっています。今後はそれを元に、見守り以外にも災害時の避難支援、買い物や病院の通院支援など地域の中での助け合い活動を広げていきたいと考えています。

また、傾聴ボランティアの一環で、高齢者が気軽に話せる機会や場所を提供しようと、「五区のひろば『なごむ』」を開催しています。毎回、対象となるお一人お一人に案内文を出し、楽しく笑い、話し、地域の絆を深めることを目的としています。

その他にも、子どもたちの登下校の見守りや、あいさつ運動、地域のだれでもが参加出来るラジオ体操を毎朝実施するなど、声をかけあえる地域、支え合いの地域づくりを目指しています。



▲毎日地域で開催しているラジオ体操



橋本莞爾さん  
(福祉健康委員長)

できることから  
始めていこう!

## 地域のこれからをともに考える・専門職との連携の場



▲毎月福祉健康委員会が配布している「あいさつ運動」のチラシ

近江富士第5区では、平成22年より「福祉健康委員会」を毎月1回開催しています。会議には民生委員、自治会長、自治会副会長、福祉健康委員、自治会長経験者の方が委員となっており、その場には市の社会福祉協議会の職員も参加しています。

この委員会をベースとして、今ある活動を継続していくための仕組みを考えたり、高齢化が更にすすむ5年後、10年後を見据えて、地域でどのような取り組みを進めていけば良いのかを考え、地域住民に向けて発信しています。

委員会での話し合いから、これまでに救急ボットの普及やあいさつ運動、傾聴ボランティア、気配りマップの作成など、たくさんの活動が誕生しました。

そして、これからは、地域で生活の困りごとを助けあうしくみ「地質・地請制度」を確立していきたいと考えています。(地質の意味は(賛助)=地域で助ける。地請は(請願)=地域に依頼する。)

外出時の送迎や買物の代行など、これからはますます高齢化が進む中、時間的にも多少余裕のある



▲福祉健康委員会の様子

自分に何か地域で出来ることはないだろうかという委員会のメンバーの素朴な思いから出てきました。これまでに、具体的に何に困っているかについてニーズを調査するために、高齢化に関するアンケートを実施したり先進地の視察をしたりしました。

こういった、地域の現場からの声や課題を直接聞くことができる場が、専門職にとってはニーズの早期発見や予防へとつながっています。



寺村弥生さん  
(野洲市社会福祉協議会 福祉企画課)

みなさんとともに考えながら、  
地域づくりをすすめています!

## 住民と専門職が 出会う協働の場

### 立場をこえて!

地域で活動をしていると、住民だけでは解決できない困りごとを抱え

た人の問題などさまざまな地域の課題が見えてきます。そんなとき、「あの人に相談しよう」と専門職と顔の見える気軽に相談できる関係ができていくと安心です。この場では、活動者同士が情報交換し、様々な地域の問題を気軽に話し合うとともに、社協や地域包括支援センター、行政等の専門職とも情報の共有をし、また個別の問題について一緒に考えたりもします。時にはミニ学習会などを開催したりすることもあります。

## 住民活動との連携を目指して

野洲市では、関係部署・関係機関が連携して、自分の領域以外の仕事に関心をもって「おせっかい」することを基本に、生活困窮者や生活面での不安定さ等から就労につながりにくい人の支援や社会参加を目指した支援をするパーソナル・サポート・サービス事業を実施しています。具体的には、野洲市市民相談総合推進委員会設置要綱を設け、市民生活相談室をはじめとしたさまざまな機関に寄せられた相談、または気づいたことを、市役所の各部署、社会福祉協議会、警察、医療機関、福祉施設、弁護士会、司法書士会等との連携の下、そのネットワークを活用して支援に結びつけています。



また、不動産管理会社とともに生活弱者発見・緊急連絡プロジェクトを展開したり、就労困難者の中間的的就労事業なども実施しており、様々な団体、機関、企業とつながりながら支援の必要な人に寄り添う重層的な支援をおこなっています。

郵便物がたまっていることに気が付いた近隣住民からの連絡により支援につながったケースもあります。

福祉の専門職が全ての人や世帯を見回すことはできません。大切なのは、住民や住民の生活に密着している機関の気づきと、気づいたことを安心して

## 専門機関の ネットワーク

### 専門職が結集!

行政や社会福祉協議会、医療機関や福祉施設、NPOといった、専門の知識を持つ人たちが、地域の住民活動と連携しながら、それぞれの方だけでは限界のある制度やサービスの「はざま」にある問題を話し合ったり、時には制度や施策に結びつけたり、住民活動を波及させていくための方策を話し合ったりするための概ね市町域でのネットワークの場です。

つなぐことのできる「おせっかいな仕組み」があることです。

今後も、住民の福祉活動などつながりながら地域全体のネットワークのさらなる充実を目指しています。

みんなでおせっかいを  
しましょう~!

生水裕美さん  
(野洲市市民生活相談室)

